

# 日本医史学会会報

46号(復刊)

平成22年10月30日

第112回日本医史学会総会の開催にあたって	会-1
第111回日本医史学会総会・学術大会に参加して	会-2
第111回日本医史学会総会	会-5
平成21年度支部・研究会報告	会-19
雑報・寄贈本リスト	会-28

## 第112回日本医史学会総会の開催にあたって

総会会長 坂井 建雄

本年6月に水戸で開催されました第111回日本医史学会総会において承諾を得て、第112回総会会長にご指名いただきましたので、開催の挨拶を申し上げます。

すでに会員各位のお手元に第112回総会・学術集会の第1報が届いていることと存じますが、今回の総会は順天堂大学の本郷キャンパスを会場として開催いたします。順天堂は学祖佐藤泰然が、天保9(1838)年、江戸・薬研堀に設立したオランダ医学塾(当初は和田塾と称す)を起源とし、現在にまで連なる医学教育機関として長い歴史を有しております。本郷キャンパスは都心の御茶ノ水駅からほど近い交通至便の地にありますが、現在、創立175周年記念事業の一環として再開発が行われており、会場の配置や環境においてハンディを抱えております。円滑な学会運営が行えるよう実行委員一同により詳細に対策を検討し、準備段階および総会の当日におきましても参加者の

方になるべくご不便がかからぬようにできるかぎりのことをいたしますので、あらかじめのご寛恕をお願いいたします。

順天堂は天保14(1843)年に江戸より佐倉に移ってからの名称で、この地に諸国諸藩よりオランダ医学を学ぶ医学者が参集し、西洋医学研究・教育・そして臨床医学実践の場として盛況をきわめました。佐藤泰然の次男松本良順は、長崎でボンペが行った我が国で初めて体系的な西洋医学教育を補佐してその学頭を務め、明治期の新しい医学を建設する数多くの人材を育てました。順天堂の2代目堂主の佐藤尚中は、明治新政府の要請を受け、佐倉より門下生を率いて上京し、大学東校(東京大学医学部の前身)の初代校長として近代医学教育確立に尽力し、西洋医学教育の礎を固めました。現在の順天堂は、佐藤尚中が明治6(1873)年に下谷練堀町に開院し明治8(1875)年に湯島・本郷の現在の地に移転した順天堂医院

から発展したものです。

今回の総会では、このように我が国の医学教育の歴史と縁の深い順天堂で行われるということにちなみ、医学教育史をテーマとして取り上げることにしました。特別講演では東京大学名誉教授の天野郁夫先生にお話しいただく予定です。天野先生は我が国の教育システムが社会にとって持つ意味を広く研究され、近刊の『大学の誕生』(中央公論社)では明治期の高等教育がダイナミックに成長・発展する過程を明快に解き明かされ、今回はその続編として「大学令と大正昭和期の医師養成」をテーマにお話しいただく予定です。また2日目の午後には、我が国の医学教育史についてのシンポジウムを開催いたします。医学教育の諸相に造詣の深い5名の先生方に講演をお願いし、それぞれに特定の時代とテーマについてお話しいただきます。シンポジウムについては日本医史学会会員以外の方にも公開し、テーマと関連の深い日本医学教育学会の会員の方たちにも参加を呼びか

けます。

本総会での特別講演とシンポジウムでの講演は、江戸時代から現代にまで至る医学教育の歴史を俯瞰するとともに、我が国の歴史と文化が育んできた現在の医学教育の特徴が浮き彫りになるものと期待しております。この貴重な機会を今後の医学教育史研究に生かしていくために、講演者の方々には講演テーマについての原稿執筆をお願いし、さらに数名の専門家からの原稿を加えて、『日本医学教育史(仮題)』という学術書を東北大学出版会から2012年1月頃に刊行いたします。なお今回の総会に参加された方には本書を1部ずつ贈呈することを予定しております。

会員各位には、来年6月11日(土)と12日(日)に東京・本郷の順天堂大学にお集まりいただき、医学・医療を築き上げてきた先人たちとその時代について、大いに議論を交わされますことを、実行委員一同ともどもお待ちしております。

## 第111回日本医史学会総会・学術大会に参加して

月澤美代子

順天堂大学医学部医史学研究室

2010年6月12日～13日、水戸の茨城大学で日本医史学会が開催された。真柳誠会長、瀧澤利行実行委員長という、年若いながら長年、医史学会で活躍されてきた2トップによる編成である。実行委員として、高村恵美、井澤耕一、七木田文彦、久保輝幸、勝井恵子、野口大輔の6氏にご尽力いただいた。細心の準備と当日の淀みない運営に心から感謝申しあげたい。

ところで、医史学の酒井シヅ教授を会長に順天堂大学で第100回日本医史学会が行われた時のことを、ついこの間のように思い出す。記念の大会ということで、実行委員として関わるべき仕事は

多く、それこそ神経を張り巡らせて会場を動き回っていた。来年、第112回の医史学会が、今度は解剖学の坂井建雄教授を会長に順天堂大学で行われることになり、については、医史学研究室の月澤が実行委員長を勤めよということになった。この間、佐倉での学会もあったので、12年間に3度の実行委員という大変なヒット率である。しかも、今度は委員長ということで、前年の大会の参加記を書くという重責が与えられた。

「重責」と書いたのは次の理由からである。今回は、3会場に分かれての発表ということもあり、私が拝聴させていただいたのは、そのごく一部で

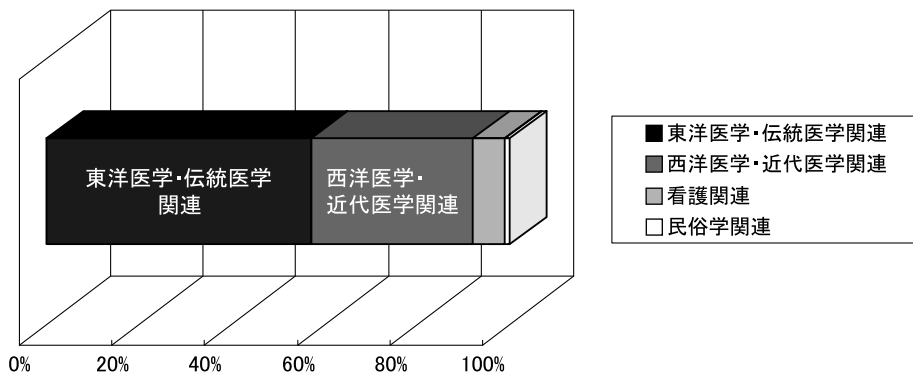


図1 第111回日本医史学会 研究対象別 演題比率

しかない。また、専門外の発表も多く、主催者や発表者の方々に失礼の無い紹介ができるか些か心もとない。このため、客観的かつ記録的部分と、きわめて個人的な印象記とに分けて記述させていただくことにした。

まず、客観的な記録として、今回の大会の特色は、何と云っても、前日に「第2回日中韓医史学会合同シンポジウム」が開催され、その参加者が多数、日本医史学会の方にも参加・発表されていたことである。このため、例年にも増して国際色豊かな大会となった。オープニングも、瀧澤実行委員長の司会により、大会長の池田幸雄茨城大学長、日本医史学会の酒井シヅ理事長、韓国医史学会の孟雄在会長、中華医学会医史学分会の張志斌後任主任委員の挨拶が、日本語、韓国語、中国語の自由に行き交う中で行われた。

図1に研究対象別の発表演題比率を示した。医史学という研究領域において、発表内容を分類することは極めて難しいが、東洋医学・伝統医学関連の発表が多かったという今回の大会の最も大きな特徴を理解していただけることと思う。なお、西洋医学・近代医学関連の発表のうち、18世紀以前の西欧を扱ったものは1題、19世紀の西欧、中国を扱ったものが、それぞれ1題、日本を主な研究対象とし明治以前を扱ったものが20題、大正以降が10題、これらのうちには、戦後の公衆衛生を扱ったものの他、医療倫理、医療政策など極めて現代的な問題を広いパースペクティブから扱ったものもあった。また、看護史関係の発表も

年々多くなってきている。

以下は、個人的な感想部分である。まず、ハイセンスな表紙とレイアウトの「プログラム」から、連絡事項の「第111回日本医史学会にご参加の方々へ」の文章が遠来の客をもてなすホスピタリティに満ちていて楽しく、身近でも話題になっていた。瀧澤実行委員長の名文と推測している。

会長講演は、「日韓越の医学と中国医書」と題して行われた。これは、何年にもわたって真柳誠大会長が心血を注いできたビッグ・プロジェクトの成果であり、中間報告を何度か聞かせていただいたことがある。4年前のミュンヘンの国際学会では英語での発表だったが、日本語や流暢な中国語が入り交じり、真柳氏ならではの大胆なプレゼンテーションで会場の参加者たちはあっけにとられていた。今回の発表は、かなりおとなしく日本語のみであり、私にもついていけるものだった。講演は、まず、真柳氏が恩師と恃む3先生へのオマージュから始まった。何人かの尊敬できる先生の存在を励みに研究を続け、大きな国際的プロジェクトをなしあげ、その成果を大会長として満場の日本・韓国・中国の研究者たちを前に報告するという、真柳誠氏の40年近くに渡る医史学研究の厚みと深さと大いなる自負を感じさせる発表であった。

特別講演は、茨城大学名誉教授である鈴木暎一先生の「水戸藩の医学と医療」であった。水戸藩の医学を徳川光圀に代表される前期、原南陽の中期、斉昭が水戸弘道館に医学館を開設する後期に

分けて、史料の紹介も交えて講じられた。翌朝、早速、緑溢れるお城の空堀を渡り、水戸弘道館に出向いて売店で鈴木先生の『水戸弘道館小史』(文真堂、2003年)を購入し、弘道館の長廊下に座りこんで俄か勉強をした。歴史小説や映画で何百回となく読んだり見たりしてきた御前試合場や厠を前にして「ほんもの」のもつ重厚感と臨場感に圧倒されつつタイムスリップしたような気分であった。

発表に関しては、印象に残ったいくつかを中心にご紹介させていただきたい。(以下、敬称は全て「氏」で統一させていただいた)

1日目は第一会場で、岡本裕子氏、上坂良子氏、川原由佳里氏、芳賀佐知子氏、鈴木紀子氏、額賀せつ子氏、大石杉乃氏の看護史関係の発表を聞いたが、さまざまな切り口と視点から史料に基づき実証的な研究を進めており、いずれも充実している聞き応えがあった。また、杉山章子氏の一連の発表「戦後沖縄の保健・医療行政」が、今後、成書に纏められていくことを期待している。

中島洋一氏の「中島有玄の閑谷並医学館入学諸事留」。備前国の在村医の跡目相続をめぐる事情である。中島氏は、医業とともに製菓業を営んできた旧家のご当主で、現在、酒井シヅ氏とともに若い研究者たちを集めて家に代々伝わる史料を解読・研究されている。松村紀明氏『鍼灸施治姓名録』——幕末の岡山県邑久郡周辺における鍼灸記録——、梶谷真司氏「江戸期在村医の製菓業——岡山県邑久郡中島家の関連文書の分析から」は、その一部である。長年にわたって自家の史料を公開しつつ研究を重ねてこられた田中祐尾氏の「田中彌性園収蔵小野蘭山書簡およびその学統について」、また、小曾戸洋氏、天野陽介氏らの江戸医学館所蔵書の追跡調査などとともに、こうした地道な研究を通して、日本列島の各地で日々展開されてきた「医」という営みの歴史の実像が浮かびあがってくることを期待している。

例年、医師試験合格者関連の充実した資料を纏

めて配布して下さってきた樋口輝雄氏が、今年『『百科全書医学篇』(明治7年文部省刊)とChambersの原本(1857年)について』の資料を印刷配布して下さった。感謝申しあげたい。

今年度の学術奨励賞は、田中誠二氏、丸井英二氏らの研究「風土病マラリアはいかに撲滅されたか——第二次大戦後の滋賀県彦根市——」に贈られた。一次史料に当たりながら、統計分析の手法を駆使しつつ地道に跡付けてきた労作である。心からの拍手を送りたい。

会場では、国内外の大学院生たちのフレッシュな発表とともに、茨城大学の学生さんたちだろうか、若い学生たちの姿も目についた。また、順天堂大学のゼミで私が指導した医学部の学生が、東京から2日間、水戸通いをして学会に参加してくれた。文字通り自発的な参加だったが、学会参加のマナーなどの事前指導を行っておいた。しかし、抄録号を渡していなかったため、パワーポイントを伴わない口演の内容把握は困難を極めたようで、特に中国語での発表には大いに戸惑っていた。佐倉の大会でも長崎の大会でも、ゼミで指導した学生が「先生の発表を聞きたい」と嬉しいことを言って自発的に参加してくれていた。医学部の学生の中にも歴史や医史学に関心のある学生は多く、ゼミでも毎年、素晴らしいレポートをまとめてくれる。将来、臨床医になっても医史学への関心を持ち続け、いつか研究を纏め医史学会で発表してくれることを希っている。

参加できたいくつかのセッションに限って言えば、会場での質疑応答は活発で、いくつかの報告では発表内容をめぐる議論も展開されていた。医師や看護師、鍼灸師といった医療の現場にいる方々はもちろん、文系・理系を問わず、さまざまな関心や国籍やルーツを持つ幅広い世代の人たちが集まり、自由に討議しあう会に参加することができた。運営して下さった事務局の方々に重ねて感謝する次第である。

## 第111回日本医史学会総会

去る平成22年6月11日(金)に理事・評議員会, 12日(土)には総会が茨城大学で開催されました。下記の報告が承認され, 協議事項は可決されました。第7号議案については, 現時点では不十分ではあるものの随時見直ししながら進めるということで, 賛成多数による可決された。

### I. 報告事項(平成22年3月31日現在)

#### (1) 平成21年度庶務報告

##### 1. 会員の動静

入会者 58名

退会者 42名

死亡会員 8名 涌井 昭(21年4月6日) 岩崎 一(21年5月23日)

山中健輔(21年6月22日) 川上 武(21年7月2日)

中西淳朗(21年8月17日) 佐藤 強(21年9月11日)

野中杏一郎(22年1月26日) 華岡青洲(22年2月21日)

都合退会 34名

現在会員数 911名 正会員 901名(うち学生会員33名, 海外会員33名)

名誉会員 7名

賛助会員 3名

##### 2. 受賞

平成20年11月27日 厚生労働大臣表彰 深瀬泰旦

平成21年4月29日 瑞宝重光章 原田康夫

平成21年4月29日 瑞宝中綬章 石原 昂

平成21年12月25日 鳥取県文化功労賞 森 納

#### (2) 平成21年度事業報告

1. 日本医史学雑誌 第55巻第2・3・4号, 第56巻第1号 発行

2. 第110回日本医史学会総会 平成21年6月6日(土)~7日(日)

会長 前山隆太郎 於・佐賀県佐賀市 アバンセ

3. 日本医史学会例会 8回開催

9月は神奈川県地方会と合同開催,

12月は日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・日本看護歴史学会と5学会合同開催,

3月は特別例会「大塚恭男先生をしのぶ会」

#### (3) 平成21年度共催・協賛事業報告

1. 神農祭【協賛】 於・湯島聖堂 平成21年11月23日(月)

2. 第17回医療文化史サロン展【後援】 於・護王会館 平成21年11月1日(日)~3日(火)

**(4) 第22回矢数医史学賞選考委員会報告**

該当なし

**(5) 第16回日本医史学会学術奨励賞選考委員会報告**

田中誠二・杉田 聡・安藤敬子・丸井英二著

「風土病マラリアはいかに撲滅されたか—第二次大戦後の滋賀県彦根市—」

(日本医史学雑誌第55巻第1号掲載)

**(6) 日本医史学会支部・研究会報告(資料A)****(7) その他****II. 協議事項****第1号議案 平成21年度決算報告に関する件(資料1-3)****第2号議案 平成22年度事業計画案に関する件**

## 1. 第111回日本医史学会総会

平成22年6月12日(土)~13日(日)

会長 真柳 誠 於・茨城大学水戸キャンパス(水戸市)

## 第2回日中韓医史学会合同シンポジウム

平成22年6月11日(金)

会長 真柳 誠 於・茨城大学水戸キャンパス(水戸市)

## 2. 日本医史学会12月例会・懇親会

平成22年12月11日(土)

日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・日本看護歴史学会と5学会合同開催【共催】

於・順天堂大学

## 3. 神農祭【協賛】 於・湯島聖堂 平成22年11月23日(火)

## 4. 小野蘭山没後200年記念事業【協賛】 記念碑:平成22年11月建碑予定

## 5. 尾台榕堂没後140年記念事業【協賛】 記念碑:(予定)

## 6. 桐山正哲顕彰記念碑建立会【協賛】 記念碑:平成24年7月10日(火)

## 7. 第18回医療文化史サロン展【後援】 於・護王会館 平成22年11月1日(月)~3日(水)

## 8. 日本薬史学会2010年会【後援】 於・東京理科大学 平成22年11月13日(土)

**第3号議案 平成22年度予算案に関する件(資料4)****第4号議案 役員改選に関する件(資料5)****第5号議案 第113回以降日本医史学会総会会長選出に関する件**

第113回日本医史学会総会

会長 寺野 彰 於・獨協医科大学(下都賀郡壬生町)

**第6号議案 日本医史学雑誌編集に関する件****第7号議案 法人化に関する件(資料6)****III. その他**

## 資料1

(収入の部)

平成21年度収支決算書

自 平成21年4月1日  
至 平成22年3月31日

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
1. 会費収入	8,300,000	7,952,080	△ 347,920	
2. 入会金	100,000	88,000	△ 12,000	
3. 雑誌売上	100,000	252,500	152,500	バックナンバー
4. 著者負担	50,000	170,400	120,400	
5. 広告収入	150,000	87,500	△ 62,500	
6. 集会費	30,000	38,750	8,750	
7. 助成金	1,300,000	1,300,000	0	
8. 寄付金	0	200,000	200,000	
9. 利 息	2,000	452	△ 1,548	
10. 雑収入	50,000	23,414	△ 26,586	印税他
小 計	10,082,000	10,113,096	31,096	
前年度繰越金	4,994,811	4,994,811	0	
合 計	15,076,811	15,107,907	31,096	

## 資料2

## 平成21年度収支決算書

自 平成21年4月1日  
至 平成22年3月31日

## (支出の部)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
1. 学会誌等刊行費	4,500,000	3,843,712	△ 656,288	
2. 名簿刊行費	0	0	0	
3. 事業費	3,000,000	1,413,514	△ 1,586,486	
4. 事務費	500,000	150,533	△ 349,467	
5. 印刷費	200,000	269,940	69,940	
6. 備品費	300,000	204,855	△ 95,145	
7. 通信費	300,000	129,810	△ 170,190	
8. 人件費	2,200,000	2,112,500	△ 87,500	
9. 交通費	850,000	540,520	△ 309,480	
10. 渉外費	100,000	58,574	△ 41,426	
11. 会議費	100,000	70,316	△ 29,684	
12. 雑費	10,000	4,965	△ 5,035	
13. 特別会計	0	1,500,000	1,500,000	
14. 予備費	3,016,811	0	△ 3,016,811	
小 計	15,076,811	10,299,239	△ 4,777,572	
次年度繰越金	0	4,808,668	4,808,668	
合 計	15,076,811	15,107,907	31,096	



## 資料3

## 資産 (平成22年3月31日現在)

1. 一般会計	4,808,668	(現金 533,498 預金 4,275,170)
2. 特別会計	10,591,293	
3. 矢数医史学賞基金	5,017,708	
4. 斉藤脩基金(日本医史学会学術奨励賞基金)	1,564,922	
計	21,982,591	

## 内 訳

## 特別会計

支 出		収 入	
次年度への繰越金	10,591,293	前年度より繰越金	9,064,278
		利 息	27,015
		一般会計より	1,500,000
合 計	10,591,293	合 計	10,591,293

## 矢数医史学賞


支 出		収 入	
次年度への繰越金	5,017,708	前年度より繰越金	5,166,145
矢数賞賞金	150,000	利 息	1,563
合 計	5,167,708	合 計	5,167,708

## 斉藤脩基金

支 出		収 入	
次年度への繰越金	1,564,922	前年度より繰越金	1,520,133
		利 息	44,789
合 計	1,564,922	合 計	1,564,922

会則第18条第3項の規定に従い、平成21年度の財産の状況及び理事の業務執行の状況を監査した結果、収支計算書その他の書類は正確かつ妥当であることを認め、理事の業務執行に不整の点はないと認めます。

平成22年4月30日

監 事 石原 力 

監 事 高橋 文 

資料4

平成22年度予算

自 平成22年4月1日  
至 平成23年3月31日

支出の部	前年度 (平21) 予算	本年度 (平22) 予算	前年度の比較	備考	収入の部	前年度 (平21) 予算	本年度 (平22) 予算	前年度との比較	備考
1. 学会誌等刊行費	4,500,000	4,500,000	0		1. 会費収入	8,300,000	8,300,000	0	
2. 名簿刊行費	0	0	0		2. 入会金	100,000	100,000	0	50名
3. 事業費	3,000,000	3,000,000	0		3. 雑誌売上	100,000	100,000	0	
4. 事務費	500,000	300,000	△ 200,000		4. 著者負担	50,000	100,000	50,000	
5. 印刷費	200,000	250,000	50,000		5. 広告収入	150,000	150,000	0	
6. 備品費	300,000	0	△ 300,000		6. 集会費	30,000	30,000	0	
7. 通信費	300,000	300,000	0		7. 助成金	1,300,000	1,200,000	△ 100,000	学術振興会 出版助成金
8. 人件費	2,200,000	2,600,000	400,000	事務・編集	8. 寄付金	0	0	0	
9. 交通費	850,000	650,000	△ 200,000		9. 利息	2,000	2,000	0	
10. 渉外費	100,000	100,000	0		10. 雑収入	50,000	50,000	0	登録・委託
11. 会議費	100,000	100,000	0		11. 前年度繰越金	4,994,811	4,808,668	△ 186,143	
12. 雑費	10,000	10,000	0						
13. 予備費	3,016,811	3,030,668	13,857						
合計	15,076,811	14,840,668	△ 236,143		合計	15,076,811	14,840,668	△ 236,143	

## 資料5

## 日本医史学会役員氏名(五十音順)

- 理事長 酒井 シヅ
- 常任理事 奥沢 康正, 小曾戸 洋, 坂井 建雄, ヴォルフガング・ミヒェル
- 監事 石原 力, 高橋 文
- 理事 遠藤 正治, 川畠 真人, 蔵方 宏昌, 新村 拓, 杉田 暉道, 田中 祐尾,  
戸出 一郎, 中橋 彌光, 西巻 明彦, 深瀬 泰旦, 正橋 剛二, 松木 明知,  
松下 正明, 真柳 誠, 吉田 忠
- 評議員 相川 忠臣, 会田 恵, 青木 國雄, 青木 歳幸, 青木 允夫, 赤祖父一知,  
荒井 保男, 岩崎 鐵志, 遠藤 次郎, 大島 智夫, 岡田 靖雄, 小形 利彦,  
小田 皓二, 片岡 勝子, 片桐 一男, 加藤 四郎, 唐沢 信安, 北小路博央,  
小林 晶, 佐藤 裕, 澤井 直, 渋谷 鉦, 島田 保久, 白崎昭一郎,  
鈴木 晃仁, 園田 真也, 高橋 昭, 瀧澤 利行, 立川 昭二, 館野 正美,  
多留 淳文, 寺澤 捷年, 友吉 唯夫, 中山 沃, 花輪 壽彦, 原 敬二郎,  
原田 康夫, 樋口誠太郎, 昼田源四郎, 藤倉 一郎, 町 泉寿郎, 松尾 信一,  
室賀 昭三, 柳澤 波香, 山内 一信, 山田 和夫, 山田 光胤, 山之内卯一
- 幹事 蔵方 宏昌, 澤井 直, 真柳 誠
- 名誉会員 大滝 紀雄, 蒲原 宏, 高島 文一, 土屋 重朗, 寺畑 喜朔, 長門谷洋治,  
森 納

## 編集委員会

(委員長) 坂井 建雄

(委員) 蔵方 宏昌, 澤井 直, 鈴木 晃仁, 瀧澤 利行, 西巻 明彦, 町 泉寿郎

## 資料6

## 一般社団法人 日本医史学会定款

## 第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、一般社団法人日本医史学会 (Japanese Society for the History of Medicine) と称する。

(主たる事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1 順天堂大学医学部医史学研究室におく。

第3条 本法人は、理事会の議決を経て、必要の地に支部を置くことができる。

## 第2章 目的及び事業

(目 的)

第4条 この法人は、医史学を研究しその普及をはかることを目的とする。

(事 業)

第5条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学術に関する会議、講演会、学術展の開催、研究及び研究業績の表彰等
- (2) 学会誌及び関係図書等の刊行
- (3) 日本の医史学界を代表して内外の関連学術団体等との連携
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な一切の事業

(事業年度)

第6条 この法人の事業年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

## 第3章 社員及び会員

(法人の構成員)

第7条 この法人の会員は次の5種とする。

(1) 正会員

この法人の目的に賛同し、別途定める会員選定委員会等で選考し、理事会で承認の上、入会金2,000円、会費年額10,000円を納めて入会した個人及び団体。但し、外国居住の個人及び団体は年額50ドルとする。

(2) 学生会員

この法人の目的に賛同し、会費年額5,000円を納めた学生

(3) 名誉会員

この法人に対し功績顕著で社員総会の承認を得た者

(4) 功勞会員

この法人に対し功勞があり、社員総会で承認を得たもの

(5) 賛助会員

この会の目的事業に賛助し、理事会で承認の上、会費年額13,000円以上を納めて入会した個人及び団体

## (入 会)

第8条 正会員、学生会員になろうとする者は会員選定委員会の選考の後、理事会の承認の上、その年度所定の入会申込書を提出しなければならない。

第9条 名誉会員は次の各号に何れかに該当し、理事会が功績顕著と認めた者であることを要する。

- (1) 30年以上の在籍正会員であって80歳に達した者
- (2) 前理事長
- (3) 正会員又は外国人で功績顕著な者

名誉会員は終身として会費を免除することができる。

第10条 賛助会員になろうとする者は理事会の承認を得て、その年度の会費等を添えて所定の入会申込書を提出しなければならない。

第11条 第8条及び第10条の会員の資格取得は会費納入日より始まる。

## (会員の権利義務)

第12条 会員は次の権利を有する。

- (1) この法人の発行する学会誌の無償配布を受けること
- (2) 学会誌に投稿すること
- (3) 会員大会、学術大会、学術集会その他の事業に参加すること

第13条 会員は、会費を前納し社員総会の議決を尊重しなければならない。

## (資格喪失)

第14条 会員は、次の事由によってその資格を失う。

- (1) 退会
- (2) 会費の滞納が1年以上を経過したとき
- (3) 後見開始・保佐開始・補助開始
- (4) 死亡・失踪宣告または会員である団体の解散
- (5) 第16条による除名処分

## (退 会)

第15条 会員で退会しようとする者は、理事長宛に退会届を提出しなければならない。

## (処 分)

第16条 会員が次の各号のいずれかに該当するときは、社員総会の3分の2以上の賛成による議決を経て理事長が戒告又は除名することができる。

- (1) この法人の名誉を傷つけ、またはこの会の目的に反する行為があったとき
- (2) この定款その他の規定に違反したとき
- (3) その他戒告又は除名すべき正当な事由があるとき

## (納入会費)

第17条 既納会費は、いかなる理由があってもこれを返還しない。

## 第4章 社員総会

## (社員の定義)

第18条 この法人の社員は正会員の中から選出された評議員をもって構成する。

- 2 評議員は別に定められた規定により、正会員の中から選出される。尚、その数は正会員数の1割を越えないものとする。
- 3 評議員の任期は1期2年とし、選出された年の事業年度開始日から2年以内に到来する事業年度終了日までとする。ただし、補充によって選出された評議員の任期は退任した評議員の任期の満了すべきときまでとする。
- 4 評議員は再任を妨げないが、満80歳に達した者は、その後に到来する事業年度終了日でその資格を失う。
- 5 評議員は定時社員総会を3回連続して欠席したとき、その資格を失う。

#### （評議員の解任）

第19条 評議員が次の各号のいずれかに該当するときは理事会の議を経て、社員総会の3分の2以上の賛成により、当該評議員を解任する事ができる。

- (1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。
  - (2) 職務上の義務違反、その他評議員としてふさわしくない行為があると認められるとき。
- 2 前項の規定により解任する場合は、当該評議員にあらかじめ通知するとともに、解任の議決を行う前に、本人が希望すれば当該評議員に弁明の機会を与えなければならない。

#### （評議員の職務）

第20条 評議員は社員総会を組織し、この定款に定める職務を行う。

#### （社員総会の構成）

第21条 社員総会は評議員をもって構成する。

- 2 名誉会員及び賛助会員は社員総会に出席して意見を述べる事ができる。

第22条 社員総会は、定時社員総会として毎年事業年度終了後3か月以内に開催するほか、必要がある場合に開催する。なお、社員総会は総社員の過半数の出席がなければ開催することはできない。

#### （招 集）

第23条 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 総社員議決権の5分の1以上の議決権を有する社員は、理事長に対し、社員総会の目的である事項及び招集の理由を示して、社員総会を招集することができる。
- 3 理事長は、前項の規定による請求があったときは、4週間以内に社員総会を招集しなければならない。
- 4 社員総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって開会日の1週間前までに通知しなければならない。

#### （議 長）

第24条 社員総会の議長は、理事長がこれに当たる。

#### （議決権）

第25条 社員総会における議決権は、1評議員につき1個とする。

#### （決 議）

第26条 社員総会の決議は、総評議員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席した当該評議員の議決権の過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総評議員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

- (1) 社員及び会員の除名
- (2) 監事の解任
- (3) 定款の変更
- (4) 解散
- (5) その他法令で定められた事項

3 やむを得ない理由のため、社員総会に出席することができない評議員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって決議し、又は他の評議員を代理人として決議を委任することができる。

(議事録)

第27条 社員総会の議事録について、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 前項の議事録には、議長及び社員総会において選任された議事録署名人2名が、記名押印又は署名する。

## 第5章 役員

(役員)

第28条 この法人に次の役員をおく。

- (1) 理事 10名以上20名以内
  - (2) 監事 1名以上3名以内
- 2 理事のうち1名を理事長とし、副理事長1名及び常任理事4名以内をおくことができる。
- 3 この法人の理事長を法人法上の代表理事とする。

(役員を選出)

第29条 理事及び監事は社員総会の決議によって選出する。

- 2 理事長、副理事長、常任理事は、理事会の決議によって、理事の中から選出する。
- 3 監事はこの法人又はその子法人の理事又は使用人を兼ねることができない。
- 4 理事のうち、理事のいずれか1名とその配偶者又は3親等内の親族（その他当該理事と政令で定める特別の関係がある者を含む。）である理事総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

(理事の職務及び権限)

第30条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 副理事長は、理事長を補佐してこの法人の業務を掌理し、理事長に事故あるときはその職務を代理し、理事長が欠けたときはその職務を行う。
- 4 常任理事は理事長及び副理事長を補佐し、この法人の業務を執行する。
- 5 理事長、副理事長及び常任理事は、毎事業年度に4か月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告する。

(監事の職務及び権限)

第31条 監事は理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況を調査することができる。

（役員任期）

第32条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。但し、再任を妨げない。

- 2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。但し、再任を妨げない。

- 3 補欠として選任された理事及び監事の任期は、前任者の任期の満了の時までとする。

- 4 理事又は監事は、第28条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

（役員解任）

第33条 理事及び監事は、社員総会の決議によって解任することができる。

（報酬等）

第34条 役員は原則として無報酬とする。

## 第6章 理事会

（構成）

第35条 この法人に理事会を置く。

- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

（権限）

第36条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事長、副理事長及び常任理事の選定及び解職

（開催）

第37条 理事会は、通常理事会と臨時理事会の2種とする。なお、理事会は、理事総数の過半数の出席がなければ開会することはできない。

- 2 通常理事会は、毎年2回開催する。
- 3 臨時理事会は、次に掲げる場合に開催する。
  - (1) 理事長が必要と認めたとき
  - (2) 理事長以外の理事から、会議の目的である事項及び招集の理由を示して招集の請求があったとき

（招集）

第38条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

（議長）

第39条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。但し、理事長が欠けたときは、あらかじめ理事会で定めた順位により、他の理事がこれに代わるものとする。



(決議)

第40条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、法人法第96条の要件を満たしたときは、理事会の議決があったものとみなす。

(議事録)

第41条 理事会の議事録については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事及び監事は、前項の議事録に記名押印又は署名する。

## 第7章 会員大会

第42条 会員大会は会員をもって構成し、年1回理事長がこれを招集する。

2 会員大会の議長は理事長、または常任理事とする。

3 次の事項について会員大会に報告する。

- (1) 定款規則の変更
- (2) 役員の任免
- (3) 事業報告及び収支決算
- (4) 事業計画及び予算
- (5) その他本会の運営に関する重要な事項

4 会員大会の議事については議事録を作成し、出席者の中からその決議において選任された議事録署名人2名が議長とともに署名しなければならない。

## 第8章 資産及び会計

(事業計画及び収支予算)

第43条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第44条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、かつ、理事会の議を経て、定時社員総会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書(正味財産増減計算書)
- (5) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の附属明細書

2 前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款及び社員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事の名簿

（余剰金）

第45条 この法人は、余剰金の分配を行うことができない。

## 第9章 定款の変更及び解散

（定款の変更）

第46条 この定款は、社員総会の決議によって変更することができる。

（解散）

第47条 この法人は、社員総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

（残余財産の帰属）

第48条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第10章 公告の方法

（公告の方法）

第49条 この法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

## 第11章 補 則

（委任）

第50条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関する必要な事項は、理事会の議決により、理事長が別に定める。

(資料A)

## 平成21年度支部・研究会報告

### 北海道医史学研究会 事業報告

北海道医史学研究会幹事会 平成21年7月21日 北海道医師会館

議題及び承認事項

1. 合同学術集会について

日本薬史学会北海道支部が当番幹事，9月5日午後2時から開催

第4回医史・薬史合同学術集会 平成21年9月5日 AKKビル

〈プログラム〉

開会挨拶(14:00～14:10)

日本薬史学会北海道支部長 斎藤元護

北海道医史学研究会会長 長瀬 清

特別講演(14:10～15:10) 座長 斎藤元護(日本薬史学会北海道支部長)

「正倉院薬物“治葛”について」

講師 相見則郎先生(千葉大学名誉教授)

一般演題Ⅰ(15:20～15:50) 座長 小松健一(北海道薬科大学)

1. 新聞に見る北海道の売薬広告(Ⅱ)世相を反映する売薬広告

○本間克明(株式会社北海道医薬総合研究所)

2. 星一によるわが国初のキニーネ製造と輸出事業(Ⅱ)キニーネと世界情勢

○山 朝江(やま内科胃腸科医院)・三澤美和(星薬科大)

3. 平成21年度改正薬事法と薬局を取り巻く環境の変化

○有澤賢二(屯田七条薬局)

一般演題Ⅱ(16:00～16:30) 座長 片岡是充(宮の森記念病院)

1. 北海道大学医学部旧本館のモデルとレリーフについて

○寺沢浩一(北海道大学医学研究科)・池上重康(北海道大学工学研究科)・

藤垣エミリア(札幌国際大学短期大学部)

2. 蝦夷地の医療Ⅲ

○島田保久(元町整形外科)・片岡是充(宮の森記念病院)

3. 札幌病院初代院長渋谷良次の肖像写真をめぐって

○宮下舜一(北海道医史学研究会)・菊田道彦(北海道医史学研究会)

閉会挨拶(16:30～)

北海道医史学研究会 代表幹事 島田保久

○「北辰」第10号 平成22年1月1日発行

### 会員の活動

平成21年5月30日 札幌コンベンションセンター

日本薬史学会北海道支部 平成21年度総会特別講演

「蝦夷地の医師(くすし)」 島田保久

平成21年9月25日

市立札幌病院創立140周年記念講演

「札幌病院草創期の医師達」 宮下舜一

島田保久(北海道医史学研究会代表幹事)

## 新潟支部 報告

今年度は支部としての例会、研究発表は行われなかった。支部事務局の所在は従来通り、日本歯科大学新潟生命歯学部医の博物館である。

平成21年度中の支部会員の学会発表などは次の通りである。

### 学会・研究会などでの発表

1. 第110回日本医史学総会(6月7~8日 佐賀市・アバンセ)
  - 〈一般講演〉
  - 「緒方春朔文書」の考察 西巻明彦
  - 明治16年(1883)に東京府が行った整骨師、入歯師等の調査について 樋口輝雄
2. 第37回日本歯科医史学会総会(10月3日 東京都千代田区・東京歯科大学)
  - 〈一般講演〉
  - プラタヌス(ヒポクラテスの木)の受容と新宿御苑 西巻明彦
  - 『断毒論』と種痘 西巻明彦
  - 『病草紙』にみられる絵図の連続性の研究 西巻明彦
  - 病草紙と刷掃指導(その2) 西巻明彦
  - 歯科医療行為を行う職種の多様性の意味の考察 西巻明彦
  - Ludlow's Manual of Medical Examination*(1867年版)と和訳本『医学七科問答』 樋口輝雄
  - 占領期日本における歯科医学教育の改革(第2報) 樋口輝雄
3. 2009年度東日本英学史研究会総会(3月26日 新潟市・イタリア軒)
  - 〈特別講演〉
  - 英人医師パーム(Theobald Adrian Palm 1848.1.22~1928.1.11)の生涯と業績  
—新潟県の医学と文化の近代化の貢献— 蒲原 宏
4. 新潟大学開学60周年記念文化講演会(10月25日 新潟市・新潟大学有壬記念館)
  - ヒポクラテスの木及びヒポクラテス像と中田瑞穂名誉教授行実について 蒲原 宏
5. 第8回「全国藩校サミット in 長岡」関連事業
  - 連続講座「長岡藩校崇徳館・与板藩校正徳館とその教育(3月15日 長岡市立中央図書館)」
    - 〈講演〉正徳館の教育 長谷川一夫
  - 長岡市立中央図書館主催展示会「藩校崇徳館・正徳館の教育~心と英知を育んだ書物の世界(5月23日~6月7日 長岡市立美術センター)」
    - 〈展示解説会〉「正徳館の教育」と「日本各地で学んだ長岡の人びと」 長谷川一夫
  - 第8回全国藩校サミット in 長岡実行委員会主催展示会  
「長岡藩主牧野家と崇徳館(6月13日~21日 長岡商工会議所)」
    - 〈展示担当〉「日本各地で学んだ長岡の人びと」 長谷川一夫

## 著作ならびに論文等

- 口腔と全身疾患, クインテッセンス出版 (編著・分担執筆) 中原 泉  
 スタンダード歯科医学史, 学建書院 (分担執筆) 西巻明彦  
 続・新潟での天見民和先生の思い出, 九州大学整形外科教室開講百周年記念寄稿集 蒲原 宏  
 戦死した青年俳人医師古寺一郎(1920~1944)さん追慕, 『新潟市医師会報』No.461 蒲原 宏  
 整形外科の歴史(139)~(141) ニュージーランド整形外科の近代化(1)~(3) 蒲原 宏  
 整形外科の歴史(142)~(144) 南アフリカ整形外科の近代化(1)~(3) 蒲原 宏  
 整形外科の歴史(145)~(147) フィンランド整形外科の近代化(1)~(3) 蒲原 宏  
 整形外科の歴史(148)~(150) イギリス整形外科の研究者たち(1)~(3) 蒲原 宏  
 “整形外科の歴史”は『整形外科看護』14巻1号~12号に連載  
 歴歯散策⑥ 幕末医療革命—洋方vs漢方 西巻明彦  
 歴歯散策⑦ 消えた口腔医学—ドイツ医学の勝利 西巻明彦  
 歴歯散策⑧ 西洋歯科学の渡来—米国の衛生啓蒙書と明治初めの和訳本 樋口輝雄  
 歴歯散策⑨ 米国歯科医学の伝習—高山『保歯新論』とモダン・デンティストリー 樋口輝雄  
 歴歯散策⑩ 歯科未来物語—先人たちが思い描いた夢 樋口輝雄  
 “歴歯散策”は『Dental Tribune』Vol.5, No.1~5に連載

## 特記すべき事項について

会員広瀬秀氏の編纂執筆により、『100年の軌跡—新潟県歯科医師会創立記念誌』が2009年3月に上梓された。社団法人新潟県歯科医師会発行の同記念誌は、明治草創期の貴重な初出資料なども収めたA4判730頁の本誌と、各種名簿や年表等を掲載したDVDの資料編よりなる。

〒951-8580 新潟市中央区浜浦町1-8

日本歯科大学新潟生命歯学部 医の博物館内

日本医史学会新潟支部(樋口輝雄)

電話 025-267-1500 FAX 025-267-1134

## 北陸支部(北陸医史学会) 活動報告

### 1. 支部総会・例会

日時:平成21年7月12日(土)午前10時

会場:福井県医師会館4階会議室

会員研究発表

- ①越中国高岡町の累代の医家松田三知家の事蹟について 正橋剛二  
 ②日本で種痘が行われ始めたのは嘉永元年か嘉永二年か 白崎昭一郎  
 ③成瀬正居「壮猶館御用達溜」などに記された黒川良安、鹿田謹斉、高峰元稔等の  
 壮猶館での御勤め 板垣英治  
 ④木村孝蔵の外科講義録 寺畑善朔  
 ⑤官立医学校時代における卒業生の称号 赤祖父一知・今井美和・堀井美里  
 ⑥「戦時体制」と「官立金沢医科大学」—その二 筋 昭三

総会議事

- ①平成20年度活動報告

- ②平成20年度決算報告
  - ③平成21年度予算案
- すべて理事者側報告提案通りで可決。

## 2. 新入会員(3名)

高橋 文(東京都)  
野村富美子(昭島市)  
山下公一(石川県河北郡)

## 3. その他報告(雑件)

### 神奈川県地方会 活動報告

#### 平成21年総会・第34回秋季学術例会

日時：平成21年9月12日(土)  
会場：鶴見大学歯学部3号館2階301-1  
出席者：約30名

##### (1) 学術例会演題

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 仏教思想と穢れの関係 | 杉田暉道  |
| 2. 救らいの父・光田健輔 | 佐分利保雄 |
| 3. 森鷗外と原田直次郎  | 荒井保男  |
| 4. 漢代の医学      | 家本誠一  |

##### 【特別講演】

血圧測定とその考察の歴史 横浜市立大学大学院医学研究科特任教授 栃久保修先生

##### (2) 総会内容 議長は家本誠一氏

1. 平成21年度決算報告, 会計監査報告
2. 平成22年度予算報告
3. その他

#### 平成22年総会・第35回春季学術例会

日時：平成22年3月13日(土)  
場所：鶴見大学歯学部3号館2階301-1  
出席者：約30名

##### (1) 学術例会演題

- |                   |            |
|-------------------|------------|
| 1. はしか(麻疹)の流行史(1) | 佐分利保雄      |
| 2. 臨床研究の倫理的な流れ    | 関根 透, 島田道子 |

##### 【特別講演】

インフルエンザ流行史 元国立公衆衛生院感染症室長 母里啓子(もりひろこ)先生

##### (2) 総会報告

1. 平成20年21年についての経過報告 滝上正会長
2. 新幹事の紹介 後藤英司氏, 菊谷豊彦氏
3. 第36回秋季大会 鶴見大学歯学部(予定), 日程は後日連絡

4. 平成22年度までは滝上会長、関根幹事長で実行していくが、23年度より若い会長と幹事長を選出してもらいたい。

#### 平成21年度幹事会の開催

1. 平成21年3月21日, 2. 平成21年5月15日, 3. 平成21年6月26日, 4. 平成21年7月24日, 5. 平成21年10月17日, 6. 平成22年2月23日, 7. 平成22年3月13日の7回開催された。

出席者は毎回5名か、6名であった。

場所は、主にエクセル・ホテル・東急3階か、鶴見大学歯学部人文研究室であった。

〒240-0044 横浜市保土ヶ谷区仏向町1625-1-2427  
神奈川地方会（滝上 正）

Tel/Fax: 045-338-8785

事務局 〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3

鶴見大学歯学部・人文科学研究室（関根 透）

Tel: 045-580-8488, Fax: 045-573-9599

#### 平成21年度・幹事会の開催

1. 日時：3月21日

場所：エクセル・ホテル・東急

議事と報告：山田和夫会長が超多忙のため、春季学術例会は中止。以後、滝上副会長が責任者として地方会の運営等を指導する。秋季学術例会に向けて進める。

2. 日時：5月15日

場所：エクセル・ホテル・東急

議事と報告：山田会長より会長職の辞退届けが届く。秋季学術例会の特別講演者について、また、一般講演の募集をする。名簿を整理する。

3. 日時：6月26日

場所：鶴見大学会館ホール

議事と報告：名簿の作成の件は個人情報なので検討する。ホームページについては真柳幹事の指導を仰ぐ。会費の納入状況。秋季例会と役員人事。

4. 日時：7月24日

場所：神奈川県民センター

報告と議事：例年秋季学術例会は本部の「日本医史学会」と9月12日に共同開催する。神奈川県民センターは予約が取れないため、鶴見大学歯学部で開催する。滝上副会長が会長になる。幹事長は関根で、事務局は鶴見大学歯学部人文研究室とする。会員の増加を図る。名簿の作成は個人情報なので検討する。既に杉田氏、佐分利氏、荒井氏、家本氏から演題申込みが届いている。会員全員に案内状を発送する。当日会費200円を確認する。幹事の人事。坂本会計幹事から詳しい説明があった。

5. 日時：10月17日

場所：エクセル・ホテル・東急

報告と議事内容：9月12日学術例会の反省会。予定通りに進展。次回の学術例会は講演募集と開催案内をなるべく速めに出す。滝上会長が神奈川県医師会分科会の会合に出席し、「生涯教育の参加証」を頂いてくる。若い会員が少ないので、多くしたい。医史学に関心のある方の参加を望む。

## 6. 日時：1月23日

場所：エクセル・ホテル・東急，3階

報告と議事内容：春季学術例会について，一般演題は2題で，佐分利氏と関根・島田氏，特別講演は母里啓子（もりひろこ）先生，「インフルエンザ流行史」で，座長は滝上会長。新幹事の後藤氏と菊谷氏の紹介。神奈川新聞に開催日，場所，特別講演の内容が3月2日に掲載される。生涯教育参加申請書を医師のみに配布。会員の募集も行う。会員の110名に案内状を送付。神奈川医学会分科会から育成費が入金された。滝上会長が神奈川県医師会に出席する。

## 7. 日時：3月13日（春季学術例会当日の開催前）

場所：鶴見大学歯学部人文研究室

報告と議事内容：準備の報告。滝上会長の挨拶の内容について。幹事のみに名簿を配布，新幹事の紹介，神奈川県医師会分科会費の入金について，など。

## 8. 日時：未定（4月，または5月に開催予定）

場所：未定（鶴見大学，またはエクセル・東急・横浜駅前）

内容：春季例会の総括，秋季例会の準備について，5月または6月の幹事会は全員出席が望ましい，など。

**東海支部 報告****活動報告**

## 1. 下記講演会の後援活動を行った。

伊藤圭介日記（第15集）出版記念会 一洋学史学会11月例会共催一

平成21年11月22日 午後1時～4時30分（於・名古屋市東山植物園植物会館研修室）

**【記念講演】**

『泰西本草名疏』から『植学啓原』へ

遠藤正治

「蜂譜」に見る尾張本草学—その継承と展開—

島岡 眞

伊藤圭介が所蔵したエレキテル

三浦重徳

伊藤圭介の『途中雑記』（文久二年）

膝館寿巳恵

『吾妻日記』翻刻と解説（1）

平野 恵

『日本産物雑誌 奥羽鉱物記』

横山 進

ゲールツに贈られた伊藤圭介作製の印葉図譜

加藤億重

小石川の御薬園から植物園へ

桜田通雄

トガクシソウ学名命名のいきさつに関する再検討

岩津都希雄

(山内一信・高橋 昭)

**関西支部 活動報告**

## ▽日本医史学会関西支部2009年秋季大会（21年度春季は開催なし）

平成21年11月8日（日）於・京大会館

京都医学史研究会・実学資料研究会共催

## 〈一般演題〉

1. 英国医史—21世紀ヘルスサービス考：○栗本宗治（大阪医大），國澤隆雄



2. 芭蕉と陰囊水腫—芭蕉はなぜ庭にバショウを植えたか：杉浦守邦（天津市）
3. 大谷光瑞と薬物・香料：猪飼祥夫（天津市）
4. 茶毘の歴史と行基墓所：亥口勝彦（大阪市立大学）
5. 長岡半太郎遺墨ロマン：福井康子（大阪市）
6. ベルツ博士の北海道歴訪：山上勝久（大阪市立大学）
7. ディアコニッセという概念：泉彪之助（金沢市）
8. 緒方洪庵と足守：小田皓二（井原市）
9. 緒方惟準の著訳書および関係書の展示と解説：中山 沃（西宮市）
10. ゴッホの病跡—絵葉書と切手の自画像—：寺畑喜朔（高岡市）
11. ランビキの伝来について：W. ミヒェル（九州大学）
12. 田中彌性園収蔵小野蘭山書簡とその学統について：田中祐尾（大阪市立大学）
13. 小野蘭山とこの冬虫夏草を軸にして—：奥沢康正（京都市）
14. 松岡恕庵『怡顏齋苔品』について：太田由佳（京都大学）
15. C. J. マクシモーヴィチと黎明期日本人植物学者の交流：竹中梨紗（京都大学）
16. メアリ・スチュアート治下におけるスコットランド外科学の発展：柳澤波香（東京都）
17. 橋田邦彦『空月集』（昭和11年）にみる学生へのことば：小曾戸明子（八王子市）
18. 独嘯庵墓碑の変遷についての考察：西巻明彦（東京都）

〈特別講演〉

特別講演1「苦多尼訶経のオランダ語原典からみた近代植物学の受容」

京都大学大学院人間・環境学研究所 教授 松田 清

特別講演2「蘭山の『本草綱目啓蒙』から榕菴の『植学啓原』へ」

日本医史学会理事 遠藤正治

〈展示〉

緒方惟準関係文書：中山 沃（西宮市）

小野蘭山に因む冬虫夏草ほか：奥沢康正（京都市）

古典の日に医心方と源氏物語：半井英江（京都市）

〈紙上発表〉

近代日本における「治療教育」の系譜：小野尚香（豊中市）

田中彌性園収蔵古医書のうち稀本（3）：田中祐尾（八尾市）

以上全口演の抄録は機関誌『醫譚』91号に収載します。（平成22年5月発行予定）

▽支部機関誌『醫譚』89号 平成21年5月1日発行

支部機関誌『醫譚』90号 平成21年11月20日発行

上述機関誌の収載目次は関西支部メールアドレス（下記）をお開き下さい。

▽小野蘭山没後二百年記念事業会へ関西支部が参画し後援することを理事会において決定しました。

田中医院内 日本医史学会関西支部事務局（田中祐尾）

〒581-0003 大阪府八尾市本町 5-1-7

☎：072-922-2028 FAX: 072-993-1237

HP: <http://mhkansai.umin.ne.jp/>

## 京都医学史研究会 活動報告

## ▽機関紙『啓迪』第27号発刊

「医学天正記」について(十)  
 書簡から見る上田秋成の眼病の経過  
 第三高等学校校医・鈴木宗泰先生  
 近江婦人慈善会蒲生支会の看病婦養成(三)  
 小野蘭山ときのこ

高島文一  
 杉浦守邦  
 廣谷速人  
 八木聖弥  
 奥沢康正

## ▽第224回例会 平成20年10月12日 於・京大会館

(日本医史学会関西支部秋季大会・実学資料研究会と共催)

## 会員発表

「芭蕉と陰囊水腫—芭蕉はなぜ庭にバショウを植えたか」  
 「小野蘭山ときのこ—冬虫夏草を軸にして—」

杉浦守邦  
 奥沢康正

## 特別講演

「苦多尼訶経のオランダ語原典からみた近代植物学の受容」

京都大学大学院人間・環境学研究科 教授 松田 清

「蘭山の『本草綱目啓蒙』から榕菴の『植学啓原』へ」

日本医史学会理事 遠藤正治

謝辞：小野 強

## ▽第225回例会 平成22年1月17日 於・京都国際ホテル

講演「京都大学医学部と731部隊」

元京都大学医学部教授・神戸大学医学部名誉教授 杉山武敏先生

新年懇親会

## ▽第226回例会 平成22年3月18日 於・京都府医師会館(京都府医師会と共催)

講演「人体観の歴史を読み解く」

順天堂大学医学部教授 坂井建雄先生

## ▽医療文化史サロン協賛会「特設展示 医心方と源氏物語」

平成21年11月1日～11月3日 於・護王会館

主催 医療文化史サロン協賛会 後援 京都医学史研究会 他

## ▽その他 平成22年3月7日

府医師会を代表して京都医学史研究会有志が「盟親」の山脇東洋観臓記念碑に献花(建碑から34周年)、ついで誓願寺墓地内山脇東洋夫妻の墓・山脇社中解剖供養碑に供花した。

〒604-8585 京都市中京区御前通松原下ル 京都府医師会館内  
 京都医学史研究会 会長 中橋彌光

## 広島支部 活動報告

### 日本医史学会広島支部学術集会を開催

日時：平成22年1月9日(土)13時～

場所：広島大学医学部 基礎・社会医学棟セミナー室2

一. 日本医史学会広島支部総会

一. 日本医史学会広島支部医学史研究発表会

座長 広島大学皮膚科学 教授 秀 道広

演題1. 日露戦争期の広島予備病院における医療と看護

広島国際大学 坂村八恵, 岡本裕子, 隅田 寛, 千田武志

演題2. 岩国市芦山家に所蔵される「婦人臓図」について

東京大学「玉砕臓図」, 千葉大学「婦人臓図」との比較

広島大学 片岡勝子, 安嶋紀昭, 船田奇岑, 坂本扶美, 芦山辰朗

演題3. 岡山県における保健所体制の変遷(その2 感染症対策との関連)

倉敷仁風ホスピタル 高木寛治

一. 特別講演会

座長 広島大学医学部長 河野修興

一. 「古名刀再現への挑戦」

刀匠 久保善博

二. 富士川游 著「迷信の研究」考

広島県医師会長 碓井静照

## 福岡地方会 活動報告

平成21年度は、諸般の事情で支部会は実施できませんでした。まことに残念でしたが平成22年度はぜひ実施したいと計画しています。

### ○連載記事

福岡県医師会報に『郷土のほこり—先賢医師, 史蹟—』を毎号連載。

**雑報****寄贈本リスト****【単行本】**

- 曲直瀬玄朔, 高島文一『医学天正記について』2009  
 石井拓男, 渋谷敏, 西巻明彦『スタンダード歯科医学史』2009  
 友吉唯夫(監修)『中川米造回顧著作展』2009  
 友吉唯夫(監修)『中川米造回顧著作展(増補)』2010  
 兼松・戸井田一郎『日本におけるBCGの歴史』2009  
 天理図書館(編集)『天理ギャラリー第140回展「秋成」』2010  
 ミヒェル・ヴォルフガング, 吉田洋一, 大島明秀 共編『中津市歴史民俗資料館分館 医家史料館叢書IX  
 人物と交流II』2010  
 青木歳幸・野口朋隆 編集『「小城藩日記」にみる近世佐賀医学・洋学史料〈後編〉』2010  
 大分県立先哲史料館『大分県先哲叢書 前野良沢資料集 第三巻』2010  
 吉元昭治『落語笑う門』2010  
 韓医学古典研究所『東洋医学大事典(総12巻)』  
 中村光夫『茨城の疱瘡神』2010

**【別刷】**

- 『大脳皮質局在論の先駆者フランツ・ヨゼフ・ガル生誕250年展(2)』濱中淑彦「名古屋医報」(1330)  
 『「アルブレヒト・フォン・ハラー生誕300年」(続2: アルプス紀行1)』濱中淑彦「名古屋医報」(1335)  
 『「アルブレヒト・フォン・ハラー生誕300年」(続2: アルプス紀行2)』濱中淑彦「名古屋医報」(1337)  
 『「アルブレヒト・フォン・ハラー生誕300年」(続2: アルプス紀行3)』濱中淑彦「名古屋医報」(1338)  
 『新春閑話「クルシウス没後400年記念のライデン大学」』濱中淑彦「名古屋医報」(1340)  
 『クルシウス(1526-1609)の生涯とオーストリア時代(1)』濱中淑彦「名古屋医報」(1341)  
 『クルシウス(1526-1609)の生涯とオーストリア時代(2)』濱中淑彦「名古屋医報」(1342)  
 『The qualifying exam for general practitioners and the physicians' registry in the early Meiji period』樋口輝雄  
 「Japanese Dental Science Review」  
 『青木周蔵の渡独前の修学歴(2)―漢学の修業時代―』森川 潤「広島修大論集」50(2)  
 『松江藩における賀川流産科の移入とその影響について―鍼医から産科医をめざした小篠昌榮の学問・  
 医学修業を通して―』梶谷光弘「古代文化研究」(18)  
 『「広前藩医 桐山正哲の生涯と業績」―顕彰碑建立を記念して―』松木明知

**【雑誌】**

- 『あいまっく』30(4), 31(1-3) 国際医学情報センター  
 『BIBLIA』(132-134) 天理図書館  
 『Chinese Journal of Medical History』39(3-6), 40(1-3) Chinese Medical Association  
 『Capsule』(87-88) 日本製薬工業協会広報委員会  
 『Chinese Medical Journal』122(22-24), 123(1-19) Chinese Medical Association  
 『千葉県立中央博物館研究報告』11(2) 千葉県立中央博物館  
 『だより(練馬区医師会)』(500-512) 練馬区医師会  
 『福井県医師会だより』(581-593) 福井県医師会

- 『北陸医史』(31-32) 北陸医史学同好会  
『北辰』(10) 北海道医史学研究会  
『醫譚』(90-91) 日本医史学会関西支部  
『医道の日本』68(11-12), 69(1-11) 医道の日本社  
『いわちどり(小笠医師会誌)』(37) 小笠医師会  
『JMAJ』52(4-6), 53(1-5) Japan Medical Association  
『Journal of Anesthesia』23(4), 24(1-4) Japan Society of Anesthesiologists  
『漢方の臨床』56(12), 57(1-10) 東亜医学協会  
『漢方と鍼』34(1-4) 北里研究所東洋医学総合研究所だより  
『神奈川県医学会雑誌』36(2), 37(1) 神奈川県医師会  
『研究紀要』(4) 佐賀大学地域学歴史文化研究センター  
『Medical Postgraduate』48(1) 医学書房  
『明治薬科大学研究紀要』(39) 明治薬科大学  
『名古屋大学史紀要』(18) 名古屋医史談話会  
『練馬医学会誌』(16)  
『日本医師会雑誌』138(8-12), 139(1-8), 特(1-2) 日本医師会  
『日本獣医史学雑誌』(47) 日本獣医史学会  
『日本歯科医史学会誌』28(1-4) 日本歯科医史学会  
『鳴滝紀要』(20) シーボルト記念館  
『労働科学』85(4), 86(1-5) 労働科学研究所  
『労働の科学』64(12), 65(1-12) 労働科学研究所  
『STETHOSCOPE』(197-198), 号外 日本医学切手の会報  
『斯文会々報』(64) 斯文会  
『斯文』(119) 斯文会  
『惣斎研究会だより』(120-121) 惣斎研究会  
『洋学史研究』(27) 洋学史研究会  
『除痘館記念資料室だより』(1-2) (財)洪庵記念会. 除痘館記念資料室

# 日本医学会だより

JAMS News

2010年10月 No. 44  
日本医学会

## ◆第139回日本医学会シンポジウム

「心筋梗塞」をテーマに、平成22年12月9日(木 13:00~17:00)、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、水野杏一、長尾建、小川久雄の各氏。参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)にて、お申し込みいただきたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、Web上にて映像配信される。

序論：長尾 建（駿河台日大病院・循環器科

心肺蘇生・救急心血管治療）

1. わが国における院外心室細動の現況とAED普及の効果/田中秀治（国士館大・救急システム研究科）
2. 院外心停止併発急性心筋梗塞の新たな展開/立花栄三（川口市立医療センター・循環器科）
3. 急性心筋梗塞の診断と心不全の観点から梗塞後治療を見直す/佐藤直樹（日本医科大・集中治療室・内科学）
4. 急性心筋梗塞症治療の現状と将来への展望/木村一雄（横浜市大附属市民総合医療センター・循環器内科）
5. 心筋梗塞二次予防とカテーテルインターベンション/木村 剛（京大・循環器内科学）
6. 心筋梗塞二次予防の薬物療法/小川久雄（熊本大生命科学部・循環器病態学）

## ◆医学賞・医学研究助成費の決定

選考委員会を9月8日に開催し、平成22年度の日本医師会医学賞・医学研究助成費の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞32、助成費38を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、助成費は15件を授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・人工多能性幹細胞の樹立/山中伸弥（京大・iPS細胞研究所）
- ・神経変性疾患の分子病態機序の解明/辻省次（東大・神経内科学）
- ・消化器癌幹細胞の臨床的意義/森 正樹（阪大・消化器外科学）

〈日本医師会医学研究助成費〉

- ・自己骨髄間葉系幹細胞療法とイマチニブの併用による糖尿病合併症の治療戦略/藤宮峯子（札幌医大・解剖学）
- ・脂肪組織の炎症抑制反応による代謝改善に関する基礎的研究/薄井 勲（富山大・内科学）
- ・アクチンの構造様式制御による聴覚受容メカニズムの解明/北尻真一郎（京大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）
- ・慢性移植片対宿主病の発症機構における間葉系幹細胞の役割と新規治療法の開発/小川葉子（慶大・眼科学）
- ・癌ワクチン療法における予後予測に有用な新しいバイオマーカーの開発/笹田哲朗（久留米大・免疫・免疫治療学）

- ・虚血性心不全形成過程における心筋細胞オートファジーの役割/竹村元三(岐阜大・循環病態学)
- ・高血圧発症・進展における脳内活性化酸素による交感神経系活性化機構解明と治療法の開発/廣岡良隆(九大・循環器内科学)
- ・腓内・外分泌細胞再生機構の解明と腓疾患治療への臨床応用/洪 繁(名大・消化器内科学)
- ・尿バイオマーカーのパネル化による糖尿病管理で得られる糖尿病性腎症の発症・進行抑制効果と医療経済効果/池森敦子(聖マ医大・解剖学)
- ・神経障害性疼痛としての片頭痛の病態解明と治療法の開発/鈴木則宏(慶大・内科学)
- ・統合失調症の治療法・予防法開発研究/橋本亮太(子どものこころの分子統御機構研究センター)
- ・光イメージング法を用いた脳の健康に関する生涯発達研究/酒谷 薫(日大・脳神経外科学)
- ・子宮内膜症における癒痕形成の病態解明と新しい視点に基づく治療法の開発/奈須家栄(大分大・産科婦人科学)
- ・新しい画像解析システムを利用した緑内障の極早期診断法と進行評価法の確立/富所敦男(東大・眼科学)
- ・Adipokineの制御による乾癬の治療:メタボリックシンドロームとの関連/神田奈緒子(帝京大・皮膚科学)

### ◻日本医学会臨床部会利益相反委員会並びに日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)合同シンポジウム

「臨床研究成果の発表に係る利益相反管理のあり方」をシンポジウムテーマとした「日本医学会臨床部会利益相反委員会ならびに日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)合同シンポジウム」を曾根三郎日本医学会臨床部会利益相反委員会委員長と北村 聖日本医学雑誌編集者組織委員会委員長の下、平成22年7月15日に日本医師会館小講堂にて開催した。

日本医学会分科会108学会中93学会の利益相反担当者と医学雑誌編集者が出席し、総会に

引き続いて、8人のシンポジストによる講演が行われ、「日本医学会 医学研究のCOIマネジメントに関するガイドライン(案)」について、様々な意見交換がなされた。

### ◻臨時日本医学会臨床部会運営委員会

平成22年8月19日に、臨時日本医学会臨床部会運営委員会を開催し、「ホメオパシー」への対応について、日本学術会議会長・副会長を招いて意見交換を行った。

8月24日にはホメオパシーの治療効果を否定する金澤一郎日本学術会議会長の談話が発表された。同日開催された日本医師会第6回理事会での協議を経て、翌25日、原中勝征日本医師会会長と高久史麿日本医学会会長は合同記者会見にて、日本学術会議の談話の内容に全面的に賛同することを表明した。

記者会見の資料は、本会ホームページ「お知らせ」欄(<http://jams.med.or.jp/news/013.html>)に掲載しているので、ご覧いただきたい。

### ◻移植関係学会合同委員会

第28回移植関係学会合同委員会が平成22年7月5日、厚生労働省省議室で開催された。

心臓移植実施施設については、北海道大学病院、埼玉医科大学国際医療センター、岡山大学病院が追加認定された。15歳未満の小児の心臓移植実施施設としては、東京大学医学部附属病院、大阪大学医学部附属病院、国立循環器病研究センターが認定され、大阪大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターが小児の心肺同時移植実施施設として認定された。

肝臓移植実施施設については、自治医科大学附属病院(18歳未満)、国立成育医療研究センター(18歳未満)、順天堂大学医学部附属順天堂医院、金沢大学附属病院、三重大学医学部附属病院、京都府立医科大学附属病院、神戸大学医学部附属病院、熊本大学医学部附属病院が追加認定された。

膵臓移植実施施設については、獨協医科大学病院、京都大学医学部附属病院が追加認定された。